

斜面地における集合住宅の計画

独立行政法人 都市再生機構 西日本支社
株式会社 遠藤剛生建築設計事務所



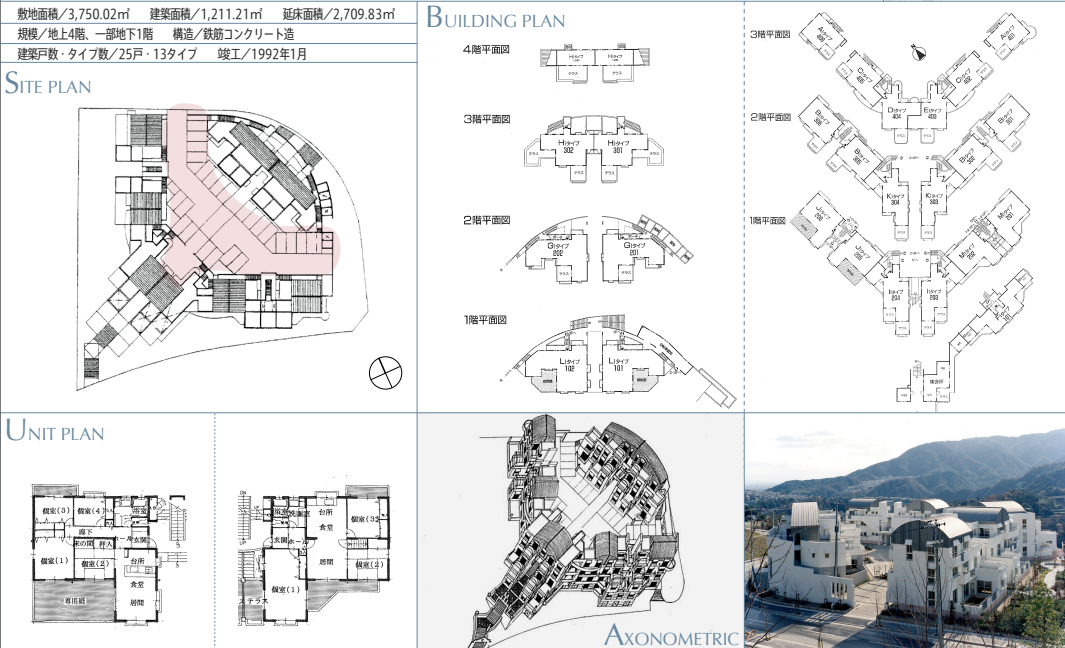
昭和30年代から50年代後半までに計画されたニュータウンの中における集合住宅は、社会的な要請によって、庶民のための住宅を大量かつ短時間に建設されなければならなかった。いわゆる「量」の時代であった。しかし、60年代になると「量」から「質」の時代へ移行し、本計画がスタートした平成3年には個人の好みの多様さを求める時代になり、住宅も質的な要求に応えなければならない時代へと移行していた時代であった。1991年（平成3年）に街開きされた西宮名塩ニュータウンは大阪と神戸の中心部からそれぞれ約20kmに位置する。敷地は南東下りの斜面地で、傾斜角度や斜面の方向、敷地形状の違い等によって各街区の設計条件が異なり、内部空間の構成においては3.6m×3.6mグリッドの単純なスペースユニットを用い、一方外部空間の構成では、場所性を活かし、多様で個性豊かな外部空間が生まれ、まさに「量から質」に転換しようとした時代の考え方を実践した計画だと考えている。

このような方法で実践された名塩ニュータウンは、斜面地の計画としては他に例を見ない特異なものであり福岡県の玄界島復興計画でも先進事例の一つとして活用されたが、今回の東日本の震災の復興計画においても一つの参考事例となり、今後の斜面地におけるまちづくりにも役立つものと考えている。

CIELAVIA HIGASHIYAMADAI 1ST BLOCK

シェラピア東山台 1 番街

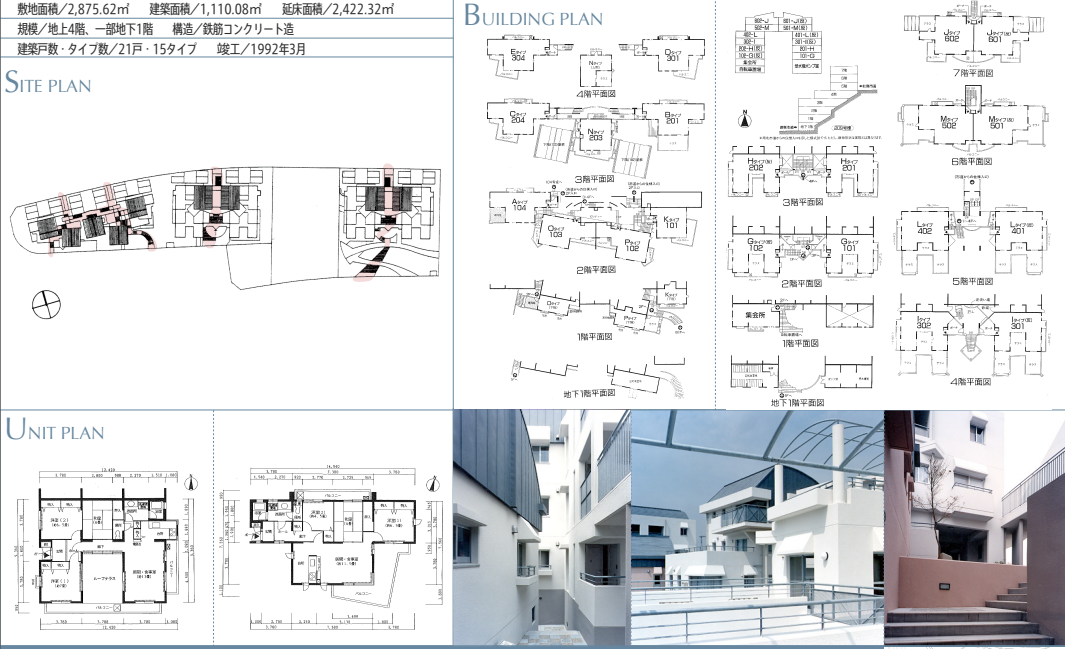
扇形のフラット宅地に、左右対称の住棟を配置したボンエルフタイプの庭を持つ囲み型住棟



CIELAVIA HIGASHIYAMADAI 3RD BLOCK

シェラピア東山台 3 番街

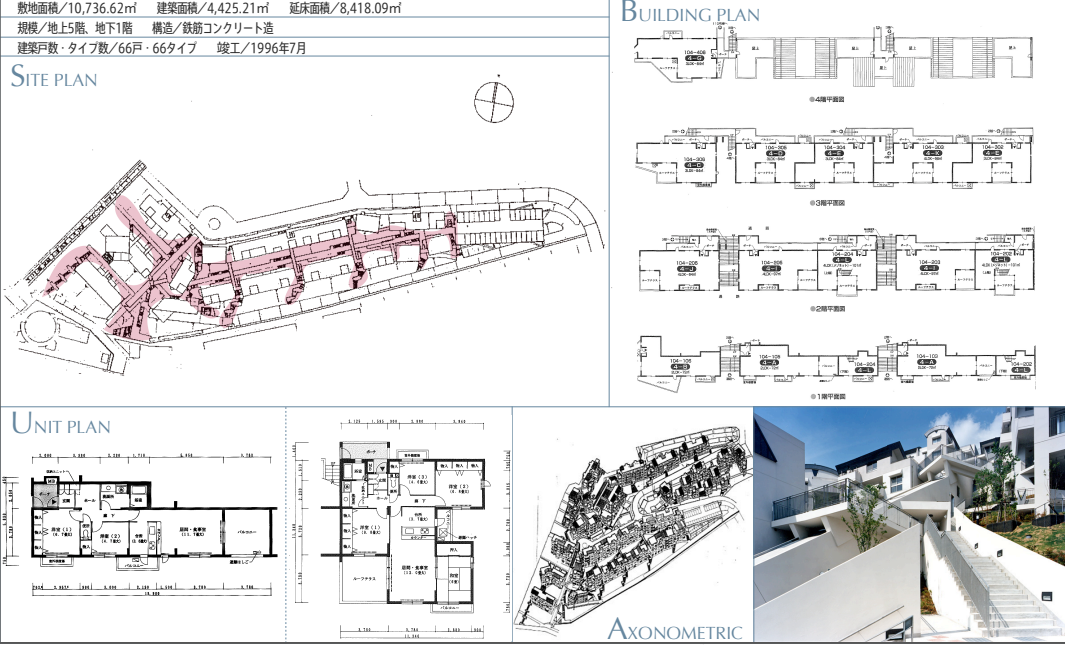
8層の段状住宅と、不整形な敷地に西に行く程細くなる路地空間がある。



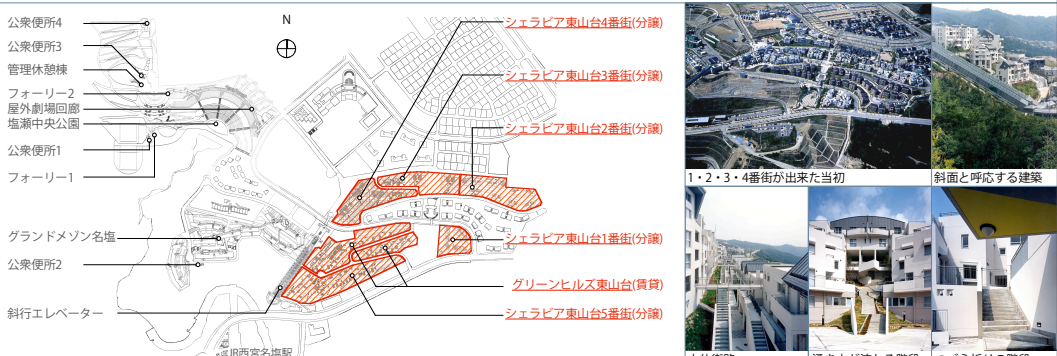
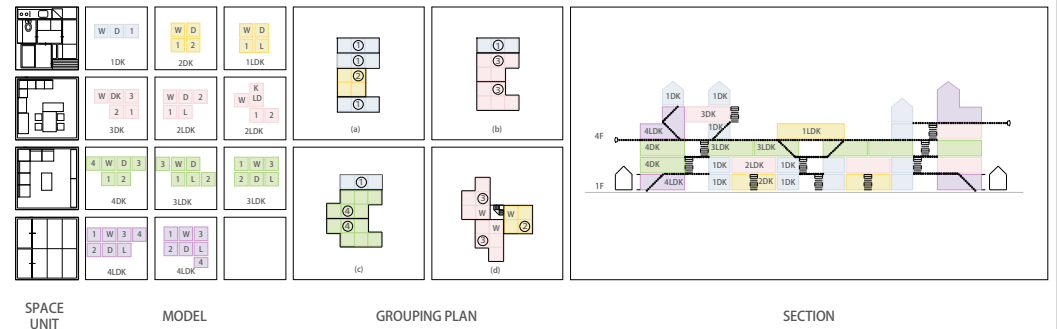
CIELAVIA HIGASHIYAMADAI 5TH BLOCK

シェラピア東山台 5 番街

東西に直線的に等高線に沿って横に延びる100mの長さを持つリニアな路地空間と、つづら折りの複雑な縦の階段によって全体を構成。



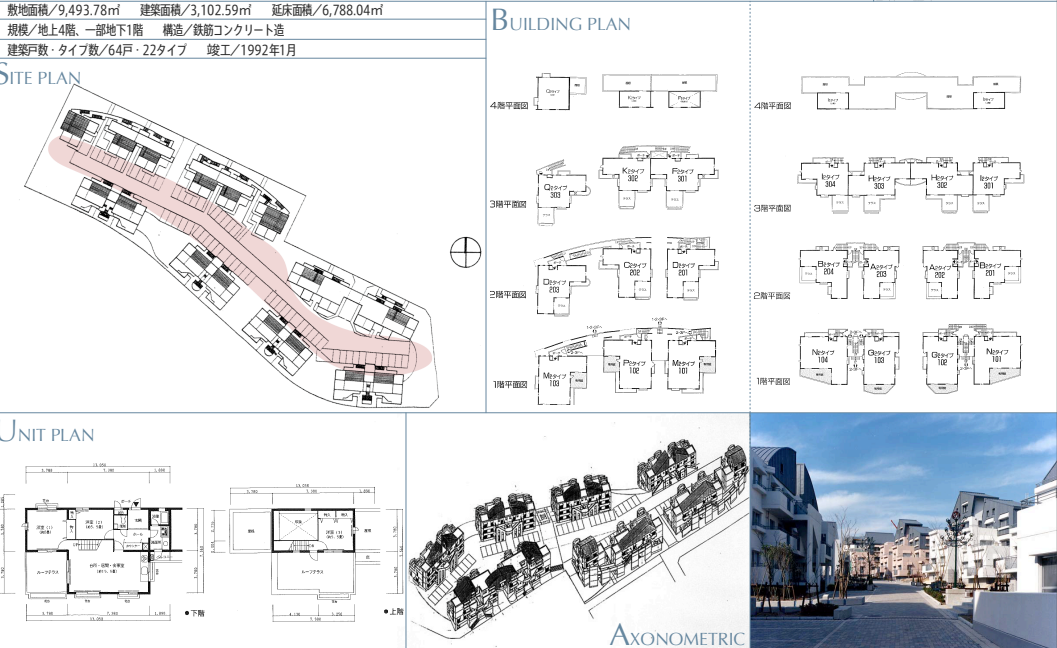
3.6m×3.6mグリッドによる内部空間の計画手法



CIELAVIA HIGASHIYAMADAI 2ND BLOCK

シェラピア東山台 2 番街

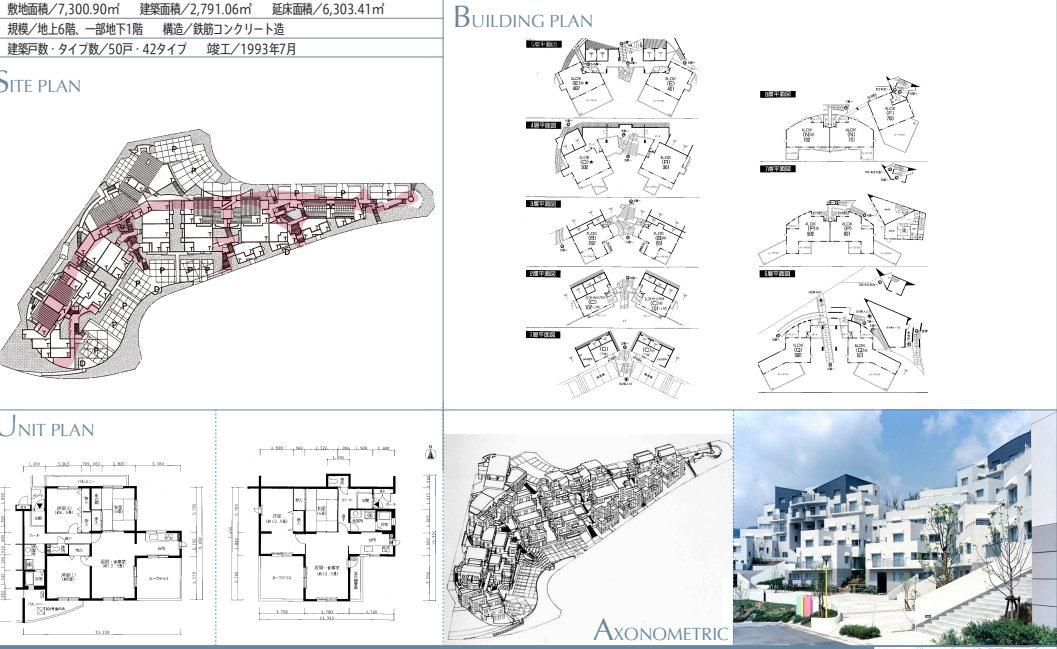
東西に長い丘の上の街区で、南側に広がる六甲山の緑が望める。東に向かってなだらかに下るリニアなボンエルフが特徴。



CIELAVIA HIGASHIYAMADAI 4TH BLOCK

シェラピア東山台 4 番街

斜面角度30°の法面を持つ「くの字」に折れ曲がった敷地。4本の形態の異なる外部階段と等高線に沿ってつながれた路地空間で全体を統一。



GREENHILLS HIGASHIYAMADAI

グリーンヒルズ東山台

長い斜面の中間に位置するフラットな場所を活かした大階段広場を中心に、そこに集まる7本の路地と階段によって、全体の共用空間をつなぐ。

